



日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

第44回
日本美容皮膚科学会総会・学術大会
イブニングセミナー2

酒さ・赤みの 最新治療と スキンケアの重要性

患者QOL向上を目指して

会場 ウェスティンホテル仙台
第3会場(25階/月)

座長 須賀 康 先生 順天堂大学医学部附属浦安病院
皮膚科 教授

2026
8 Sat
1
16:40
17:40

SEMINAR 1

美容医療の前に
知っておきたい酒さの正体

— 誤診を防ぐ鑑別診断とスキンケアの鉄則 —

〈 演者 〉 角田 加奈子 先生 岩手医科大学医学部皮膚科学講座 講師

SEMINAR 2

赤ら顔診療における
酒さの理解と治療戦略

— 美容的アプローチを含めて —

〈 演者 〉 久田 恭子 先生 新川崎 皮ふと美容のイブクリニック 院長

*事前予約制

[共催] 第44回日本美容皮膚科学会総会・学術大会/グラフィラボラトリーズ株式会社

GRAFA
LABORATORIES

SEMINAR 1

美容医療の前に 知っておきたい酒さの正体

— 誤診を防ぐ鑑別診断とスキンケアの鉄則 —

角田 加奈子 先生 岩手医科大学医学部皮膚科学講座 講師

酒さは顔面中心に生じる紅斑と易刺激性を特徴とするが、診断に苦慮する症例も少なくない。日常診療で頻繁に遭遇する皮膚疾患であるにもかかわらず、誤診や見逃しが生じることも多い。慢性の経過を辿る酒さに適切に対応するためには、鑑別疾患および関連する病態について理解を深めることが重要である。

本講演では、実臨床で鑑別する機会の多い痤瘡や脂漏性皮膚炎、加齢に伴う毛細血管拡張症、肝斑に伴う血管拡張に加え、顔面毛包性紅斑黒皮症やMorbihan病についても解説する。さらに、本邦のガイドラインに基づいた病型ごとの標準治療を整理するとともに、酒さの病態に基づくスキンケア指導について、看護師を含めた医療スタッフが実践可能な視点から述べる。適切なスキンケア指導は症状コントロールに寄与するとともに、患者の疾患理解を深め、治療継続を支える信頼関係の構築にもつながる。

SEMINAR 2

赤ら顔診療における 酒さの理解と治療戦略

— 美容的アプローチを含めて —

久田 恭子 先生 新川崎 皮ふと美容のイブクリニック 院長

皮膚科・美容皮膚科の外来では、「なんとなく赤い」といった赤ら顔の悩みで受診する患者にしばしば遭遇する。一言で「赤み」といっても、その背景にはアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性皮膚炎、酒さなど多様な疾患が含まれており、適切な鑑別が重要である。中でも酒さは、自然免疫の異常活性化が炎症を自己増幅させる機序を持つため、トリガーを除去しても慢性化・再燃しやすく、治療に難渋することも少なくない。

本講演では、赤ら顔診療の中での酒さの位置づけを整理し、近年急速に解明が進む分子病態からフェノタイプに基づく治療戦略までを概説する。また、ガイドラインに基づく標準治療に加え、美容医療がどこまでアプローチ可能なのか、実臨床での経験を交えて紹介する。